

赤坂青山 アート 特集

今号は芸術の秋ということで、アートを特集します。赤坂青山には美術館やギャラリーがたくさんあることはもちろんですが、街を歩いているだけで出会えるアートも多数あることに気がきました。世界中の建築家が注目するビルから、子どもたちが無邪気に遊ぶ遊具まで、いつもは何気なく通り過ぎている場所も、アートというフィルターを通せば、新しい発見があるかもしれません。



Sunny Hills (微熱山丘)

青山通りから1本入った南青山3丁目の路地に、ひととき目を引く建物があります。伝統的な「地獄組み」という手法で作られたアートのような建物は、東京オリンピックでも注目される建築家・隈研吾氏の作品。台湾のパイナップルケーキブランド“サニーヒルズ”が日本に初出店する際、根津美術館を見て感銘を受け、隈氏に設計を依頼して建てられました。柔らかな木漏れ日が差し込む館内は、「東京の中に森をつくる」というコンセプトどおり、まるで木立の中のような心地よさ。足を踏み入れた瞬間から、檜の香りがふわりと広がります。夜になると、今度は店内からの淡い光で、建物自体が巨大な灯りのように見えます。意図して設計したわけではないのに、来訪者からはよく「パイナップルがモチーフですか？」と聞かれるそうです。確かに、パイナップルに似ているかも！

📍南青山3-10-20 ☎03-3408-7778
🕒11:00～19:00 図無休
🚶東京メトロ[表参道]A4出口から徒歩約7分

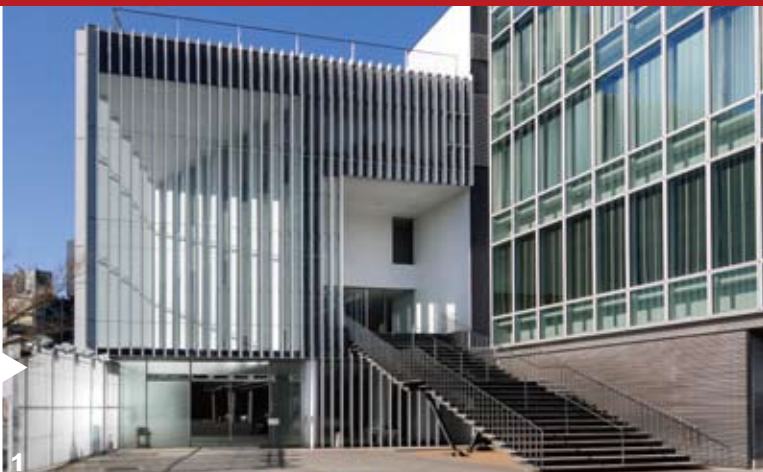


梅窓院

今から374年前の寛永20(1643)年、徳川家康の家臣である青山幸成公の菩提寺として、青山山下屋敷の中に建立された梅窓院は、法然上人を宗祖とする浄土宗のお寺です。

都市の寺院として「広く一般の人々にも受け入れられる憩いの場でありたい」という梅窓院の想いと、建築家・隈研吾氏の設計コンセプトである「集いの場」という考えが一致し、平成15年に隈氏の設計のもと、新本堂棟が完成しました。梅窓院広報の方に梅窓院のコンセプトや魅力を伺ったところ、「屋敷や格子といった日本の伝統を意識しながらも、現代の技術でシンプルに磨き上げ、お寺のもつ静寂を建築の形にしている部分が一番の魅力ですね」とのこと。竹林の参道歩くアプローチ、建物のデザインに使用されている格子は光を演出しています。春には竹林の筍が顔をのぞかせ、豊かな季節の移ろいも感じられる都会のオアシスのような空間。是非一度足を運んでみては？

📍南青山2-26-38 ☎03-3404-8447
🚶東京メトロ銀座線「外苑前」1b出口正面



- 1 本堂棟外観 隈研吾氏の設計コンセプトである「憩いの場」を形にした本堂棟
- 2 参道 竹林の参道は清々しい緑。本堂棟へのアプローチに色を添える

TOTOギャラリー・間

住宅設備機器メーカーのTOTOが運営する、建築とデザイン専門のギャラリーがあります。建築の展示会という、設計図や骨組みの模型が並び難しいイメージがありますが、こちらでは出展者が展示室そのものを作品とする、ユニークなギャラリー。中でも珍しいのが、屋外を使った展示。当日は、「緑の教会」等で有名な建築家・坂茂氏の企画展が開催中でしたが、中庭には大分県田川市に建設中のクアハウスで用いられている天井の仕組みがそのまま再現されていて、空中に骨組みが浮かんだような何とも不思議な空間が広がっていました。他にも、実物大のモックアップや模型を展示したり、着工から完成までを定点カメラで追った映像が鑑賞できたりと、五感で建築が身近に感じられるような展示がされていました。入館も無料ですので、普段はなかなか触れることのできない建築の世界を、気軽に体験してみたいかかでしょうか？

2018年1月24日(水)～3月18日(日) 「en(緑):アート・オブ・ネクサス 第15回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館開館展」
📍南青山1-24-3 TOTO乃木坂ビル3F ☎03-3402-1010 🕒11:00～18:00
🕒月曜日・祝日 🚶東京メトロ千代田線「乃木坂」3番出口から徒歩1分



Spiral

“スパイラル”は1985年10月、青山にオープンした複合文化施設です。設計は、建築家・横文彦氏が手掛けた。一歩館内に入ったところ、エントランスホール右手に2階へと続く大階段。左手正面には、2階へ向かって大きなスパイラル、いわゆる螺旋状のスロープによって円筒形の吹抜け(アトリウム)が設けられていて、ゆったりとした贅沢なパブリックスペースが広がっています。スパイラルの名前は、この建築構造に由来しているとのこと。館内では、「生活とアートの融合」をテーマに、豊かなライフスタイルの実現を目指して、全フロアから、日々さまざまな提案が行われています。ぜひ一度訪れてみては…！
9月28日(木)～10月9日(月)
窓学10周年記念「窓学展-窓から見える世界-」
📍南青山5-6-23 ☎03-3498-1171(代表)
🕒11:00～20:00 図無休(施設休館日に準ずる)
🚶東京メトロ[表参道]B1、B3出口すぐ
※詳しくはHPをご覧ください



岡本太郎記念館

岡本太郎記念館は1954年竣工。設計は太郎氏とパリ留学中より親交があり、ル・コルビュジエの愛弟子だった建築家・坂倉準三氏。太郎氏が84歳で亡くなるまで50年近く使用していた住居兼アトリエです。「芸術は爆発だ！」などと、奇抜な発言で知られる太郎氏は、形式自由な形で表現を旨しました。その理念をしっかりと受け継ぎ、この記念館では、写真撮影OK、庭に置かれている彫刻は手でさわってもOKなのです。絵を描き、原稿を口述し、彫刻と格闘し、人と会い、万国博の太陽の塔をはじめ、巨大なモニュメントや壁画など、あらゆる作品の構想を練り、制作したところ、彼のエネルギーが満ち溢れています。
7月1日(土)～10月9日(月)
「岡本太郎の東北」
📍南青山6-1-19 ☎03-3406-0801
🕒10:00～18:00(入館は17:30まで)
🕒火曜日(祝日の場合は開館)
🚶東京メトロ[表参道]A5出口から徒歩8分

根津美術館

ファッションの最先端と言っても過言ではない表参道。華やかなウィンドウが連なる通称ブティック通りを抜けると今までの輝きとは一変、緑豊かで物静かな佇まいが窺えます。そう、そこは根津美術館です。2009年に建築家・隈研吾氏により新創されました。和風家屋を思わせる大屋根が印象的な本館は、かつてこの地域がお屋敷街であったことを彷彿とさせます。美術館は初代 根津嘉一郎氏が蒐集した日本・東洋の古美術品コレクションを保存、展示するために、二代 根津嘉一郎氏が開館しました。地上2階、地下1階建ての空間は照明や展示方法にこだわりも。さらに、根津美術館の魅力と言えば、茶室と庭園です。茶室はお借りすることもできるそうです。庭園は自然の地形を活かした景観を楽しむことができ、表参道の華やかな喧騒から離れた癒しをもち、この地がファッションの最先端であることを思わず忘れてしまいう。常に魅力あふれる展示会も行っています。
9月14日(木)～10月22日(日) 企画展「ほとけを支える-蓮華・雲紋・天部・邪鬼-」
📍南青山6-5-1 ☎03-3400-2536 🕒10:00～17:00(入館は16:30まで)
🕒月曜日(祝日の場合は開館、翌日休) 🚶東京メトロ[表参道]A5出口から徒歩8分



- 1 和風家屋を彷彿とさせる大屋根
- 2 緑豊かな庭園に行む茶室「弘仁亭」

ユビキタス・アートツアー 東京ミッドタウン～檜町公園

街とアートと建築とデザインと庭園が融合して、新しい文化が生まれることを目指してつくられた東京ミッドタウン。商業施設エリアだけでなく、オフィスビル内や、檜町公園へと続く広々とした庭園にも、数々のアートワークが点在しています。それらの作品を、ユビキタス*・コミュニケータという専用端末が、順を追って詳しく解説してくれるというので、編集委員3名が120分でフルに回るコースに挑戦しました！スタートは、B1のプラザインフォメーションから。大きな石のアートがあるところ と言えば、おわかりですね。端末のナビゲーションに従って歩き、アートに近づくとも音が鳴って知らせてくれます。そこで解説を聞き、作者のインタビュー映像を見ることもできます。あら、こんなところに！とか、なるほど〜！など、口々に感想を述べ合いながら歩き続けるうち、美しくデザインされた庭園を通り、港区立檜町公園へ。子どもたちが毎日遊ぶすべり台やブランコも、実はアート作品と知り、その豊かさや驚きに感動します。あつという間に残り30分となり、慌てて商業施設内に戻り、オフィス棟へ。「一般のかたは立ち入り禁止」と立札がありますが、ユビキタスに堂々と導かれて33階に到着。エレベーターのドアが開いたとたん、思わず声が上がる眺望が広がります。東京タワーを見下ろすガラス窓近くに位置する、存在感のあるガラスのアート。夜はきつと表情が変わるから、今度は冬の夕方に見たいね。名残惜しくも、ちょうど120分で動かなくなる端末を返しに、スタート地点へ。心地よい疲れと達成感で満たされました。短縮コースや雨の日コースもあるので、自分の興味や脚力、時間の都合に合わせて、是非体験されることをおすすめします！
*ユビキタスとは「どこにでも存在する」という意味のラテン語を語源とした言葉

📍赤坂9-7-3 ☎03-3475-3100
🕒12:00～17:00(最終貸出) / 18:00(最終返却時間)
🚶都営大江戸線「六本木」8番出口から直結
東京メトロ日比谷線「六本木」から地下通路にて直結



- 1 「意心碑」プラザB1 安田 寛 制作年:2006年
- 2 「FUJIN かせのかみさま」(プランコ) 港区立檜町公園 高須賀 昌志 制作年:2006年
- 3 「フアンティックス」(手前) 芝生広場 トニークラブ 制作年:2006年 「フラグメントNo.5」(奥) 芝生広場 フロリアンクロール 制作年:2006年
- 4 「SANJIN やまのかみさま」(すべり台) 港区立檜町公園 高須賀 昌志 制作年:2006年
- 5 「鎮守の森」ガレリア 堀木 エリ子 制作年:2007年
- 6 「No.2W061216」ミッドタウンタワー-33F イタルリ 制作年:2006年
- 7 「予感の海へ」ミッドタウンタワー-1F 五十嵐 誠樹 制作年:2006年

一夜限りのアートの饗宴「六本木アートナイト2017」開催!

今年の「アートナイト」のテーマは「未来ノマツリ」。メインプログラムのアーティストに鐘川実花氏を迎え、アジアをはじめとした世界中の彩り豊かなアートやパフォーマンスで、新しいクリエイティブな祭りを表現します。非日常的な一夜限りの体験は必見です！
日時:9月30日(土) 10:00～10月1日(日) 18:00 <コアタイム>9月30日(土) 17:27 [日没]～10月1日(日) [日の出] 5:36 ※コアタイムはメインとなるインスタレーションやイベントが集積する時間帯です。開催場所:六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース
料金:無料(但し、一部のプログラム及び美術館企画展は有料) お問い合わせ先:TEL03-5777-8600 (ハローダイヤル)

21_21 DESIGN SIGHT

「土木展」、「アスリート展」、そして現在開催中の「『そこまでやるか』壮大なプロジェクト展」など、私たちの想像もつかない斬新な企画内容で、新鮮な驚きに満ちた体験をさせてくれる21_21 DESIGN SIGHT。東京ミッドタウンのガーデン内に位置し、設計を手掛けたのは建築家・安藤忠雄氏。創立者であり、ディレクターのひとりである三宅一生氏の、服づくりのコンセプトである「一枚の布」に着目し、一枚の鉄板を折り曲げたような巨大な屋根をつくりました。デザインの施設にふさわしい、独創的な造形の建物は必見です。中に入ると、1階はショップスペース。展示スペースのギャラリー1、ギャラリー2は地下になっており、自然光の差しこむエリアとの対比が美しい。展示物はもちろんのこと、天候や時間帯によっても見え方の変化する建築デザインの素晴らしさは、時間を忘れてしばし行きたくなります。10周年の今年3月、新たなスペースとしてギャラリー3を開設。10月1日までは、カプセルホテルからインスパイアされたインスタレーションを展示。なんと、実際に一夜を過ごすことが可能でして！興味のあるかたは、急ぎお問い合わせを。
6月23日(金)～10月1日(日) 企画展「『そこまでやるか』壮大なプロジェクト展」
10月20日(金)～2018年2月4日(日) 企画展「野性展:闘いならされない感覚と思考」
📍赤坂9-7-6 東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン ☎03-3475-2121 🕒10:00～19:00(入館は18:30まで) 図火曜日 🚶都営大江戸線「六本木」8番出口から徒歩5分



- 1 巨大な「一枚の鉄板」が地面に向かって折り曲げられた斬新な建築は安藤忠雄氏によるもの
- 2.3 導線を示すサインもオリジナル。消火器をさりげなく覆うカバーも「一枚の布」デザイン
- 4 自然光が差しこんで生まれる光と影の美しさ

まちなか アート



「天使(?)が導くサインアート」(北青山2丁目)
「花街の名残りを街灯全体で再現!」(赤坂対峙通の)
『美を結ぶ。美をひらく。』をミュージアムメッセージにしているサントリー美術館は、2007年に東京・赤坂見附よりここ東京ミッドタウンに移転してきました。「古きものと新しきものを結び/時代の枠組みに縛られず美と美を結び…結びことで人と美の新しい関係をひらく」想いは、館内の創りからも肌で感じるすることができます。入ってまず驚くのは「美術館なのに堅苦しくない」こと！ビルの中にあることを感じさせない贅沢で開放的な空間が私たちを迎えてくれます。この設計を手掛けたのはアノ！建築家・隈研吾氏。館内は和モダンを基調に木と和紙、そして床材にはサントリーならではのウイスキーの樽材が再生利用されており、終始居心地がよく、和やかな雰囲気でも作品を鑑賞できます。また鑑賞後は、所蔵品をモチーフトアイテムのショップや、「加賀野 不室屋」監修のカフェ、さらには普段非公開の茶室「玄鳥庵」もあり、展覧会会期中の指定の木曜日にはお抹茶と季節の和菓子がいただけます(9/21、10/5・12・19。各限定50名。1000円+別途入館料)。ぜひ、お買い物の帰りに寄ってみませんか？
9月16日(土)～11月5日(日)
「六本木開館10周年記念展 天下を治めた絵師 狩野元信」
📍赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階 ☎03-3479-8600
🕒10:00～18:00(ただし土曜日:20:00まで開館) 図火曜日 🚶都営大江戸線「六本木」8番出口から直結
東京メトロ日比谷線「六本木」から地下通路にて直結